

まつもと

公民館報

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 28

国の重要文化財に指定された 明治の国家プロジェクトが今に伝わる 牛伏川フランス式階段工

信濃川水系

全域を治める

遠大な工事

牛伏川は明治時代まで有数な暴れ川でした。山が荒廃し、豪雨のたびに土石流が発生。明治時代の新潟県下での水害で、土砂供給源の最たる要因は牛伏川だといわれた程でした。明治18年(1885)に、内務省の直轄で砂防工事が開始され、明治44年(1911)に内務省技師の池田圓男がヨーロッパへ派遣され、フランスで学んだ工法を参考に、大正5年(1916)から2年かけてフランス式階段工が完成しました。コンクリートを使わない水路張石工は、流水の浸食による河床の低下を抑制する工法で、他には見られない美観的要素を醸し出しています。



配付会のB級品コーナー

平成26年から検討が始まり、同種事業で先行していた金沢市の視察などを経て、昨年度からスタートしました。発案・企画・運営は市から委託された事業者が行っており、今年度の配付会は8回予定されています。

委託の利点として、配付会で育児・子ども用品の配付を行うだけではなく、洋服お直しコーナー、骨盤矯正体験、ママ向け講座、託児コーナーを設けるな

どんな事業？

**知っていますか？
子育てに役立つ回収ボックス！**

不要になった子ども用品を回収し、希望者に無料で配付する「松本キッズリユースひろば事業」は、松本市環境政策課の担当で2年目になります。その回収品の多くが、市内25か所の地区公民館に設置された回収ボックスで集められたものということも、その現状を取材しました。

ど、付加価値のある提案が生かされています。

回収は、地区公民館に設置された回収ボックスから事業者が回収・運搬をし、その後、点検・分類を行い配付会まで保管されます。

配付会では衣類・絵本等は直接配付されますが、ベビーカーやチャイルドシートといった大型育児用品は抽選で配付されます。破損や汚れのひどいものは廃棄されますが、軽微なものはB級品として、アンケートに答えてくれた人に自由に持ち帰ってもらい、なるべく廃棄しない努力をしています。

地区公民館では？

神林公民館では、回収ボックスを置いて2年目です。当初の予想よりもたくさんの品物が集まっています。事務所に声をかけて置いていく方もいますが、

半数以上のリピーターの方は、自由に置いていくので、気がついていたら回収ボックスがあふれている時もあります。

事業者は、月に1〜2回、連絡後回収に来ます。ボックスが空の場合は、その旨連絡することになっていますが、これまで一度もそういうことはなく、毎回いろいろな物が集まっています。

利用者は、子育て中の若いお母さんが大半で、子育て支援ということでは良い取り組みなので、地区公民館として今後も協力していく方針です。



神林公民館の回収ボックス

配付会の様子は？

10月18日に今年度の5回目が開かれ、約230世帯が参加しました。会場は毎回ララ松本の屋内テニスコートが使用されています。

場内は、各コーナーが整然とレイアウトされ、家族で訪れることができるイベント会



サイズ別に整頓された衣類

経費的にも上手く回転しているとのこと。

参加者のアンケートでは、参加年代は20〜40代の子育て世代がほとんどで、70〜80%がリピーターです。内容についての満足度は高く、特に子育てに役立っているという評価が高くなっています。

さらに、一枚のアンケートに「提案したことが生かされていくよかった」という記述がありました。環境政策課と事業者が協働し、改善しながら進めている事業であることがうかがえます。

まだスタートして日の浅い事業ですから、さらなる発展を期待しつつ、今後の活動に注目したいところです。

場となつていきます。また、保育士などによる託児スペースもあり、乳幼児がいても安心して参加できます。


今年度委託されている、長野県子育て支援団体BLA幸房の奥原代表によると、スタッフも全員子育て中のお母さんたちなので、良い案を出し合い、上手に節約しながら、

ちよこつと 松本さんぽ
 ～寒いときには「とうじそば」～

とうじそばは、奈川地区の郷土料理です。そばを汁に浸ける事を「湯じ」といい、これが「とうじ」の語源と聞きました。

鍋に山菜やきのこ、季節の青菜、鳥肉等を入れ、火にかけて温め、小割にしたそばを竹で編んだ投汁カゴに入れて鍋のつゆで湯がき、つゆや具とともにお椀で食べます。

体の芯から温まる奈川伝統の味は、地区の歴史の味でもあります。



(2016.11.2 撮影)

地域探訪

歩まじつ松本!

31

中山の史跡を巡るコース

中山地区では新鮮な空気の中でウォーキングができるように、大きな道路を避けて車通りの少ない細い道を選んであります。今回は2つあるコースの中から全長4.1キロメートルの和泉コースを歩いてみました。

景色を楽しむ

中山公民館を出発して東に進み、県道にぶつかると手前の細い道を右に曲がると、田園の中にあるまっすぐな道が見渡せます。最初の三叉路を左に曲がると県道に突き当たり渡り、細い坂道を登っていき

うど重なる姿が見られるそうです。

地域の宝 道祖神

このコースでは随所に道祖神があります。まず一つ目は「田中・中村の道祖神」です。大きな自然石から切り出されており、中山地区では珍しい祝言像です。

道なりに進むと広い竹林にぶつかります。右に曲がってしばらくすると山道に入ります。木々がうっそうと生い茂っており、ここだけ別世界のよう



でした。山道を抜けたところには中山最古の「孫右衛門の道祖神」があります。道なりに下っていくと上和泉構造改善センターにたどり着きます。ここでは



田中・中村の道祖神

休憩をしながら景色を眺められるようベンチが設置されており、ふもとの景色

を楽しむことができました。南に向かつて進んでいくと「柏木道祖神」があります。ここには「疱瘡神様」と呼ばれる麻疹の治癒に由来する石碑も一緒に建っています。

歴史が色濃く残る

右手に竹林を眺め進んでいくと中山地区に200以上あると言われている古墳の一つの「中山21号古墳」があります。中山小学校を過ぎて信号を渡ると右手に「埴原牧跡」信濃諸牧牧監跡が見えてきます。この場所には、平安時代に信濃国から朝廷へ献上する馬の牧場を統括する役所があったといわれています。ゴール地点である中山公民館の隣には考古博物館があり、市内の遺跡から発掘された貴重な資料が展示されています。ウォーキングの締めくくりに見学してもよいでしょう。澄んだ秋空の下で歩くのにぴったりのコースでした。

わがまち自慢 第13回

竹淵まつりばやし 保存会

寿地区竹淵町会の、「竹淵まつりばやし」の歴史は江戸時代にさかのぼるそうです。しかし、時代と共に伝統を継ぐ人がいなくなり、平成11年に町会と公民館が町内の伝統文化として復活させて、保存活動に取り組みことになりました。

会員は小学3年生以上が入会でき、子供たちが活発に活動しているのが魅力であり大きな特徴です。

この伝統的な文化をしっかり受け継ぎ、次の世代にたすきをつなぐために、伝統の曲を現代風にアレンジして演奏をするなどの工

夫をしているそうです。現在では竹淵町会での活動はもちろん、他町会の夏祭り、寿地区きずな森フェスティバル、近隣の神社のお祭りに呼ばれています。保存会の竹淵豊会長は他地区のイベントにも呼んで頂けたら大変嬉しいと話していました。



地産地消のかんたんレシピ

わさびの刺激で『そばサラダ』

わさびと蕎麦がベストマッチング!!

材料: そば、ミニトマト、水菜、レタス、わさびドレッシング、かつお節

1. 水菜とレタスをちぎって水にさらし、トマトは半分に切る
2. そばを茹でて冷水で冷やして、水けを切る
3. 皿に1と2を盛り付けてかつお節をのせて、わさびドレッシングをかける

